

おばちゃん通信

発行：おばたさおり/横須賀市池上 2-14-10 田中ビル 01/TEL:080-1161-4031



令和3年度当初予算の概要

横須賀市の令和3年度一般会計当初予算は1595億1000万円です。歳出は令和2年度当初予算より増加していますが、その主な要因は新型コロナウイルス予防接種事業などの感染症対策(約35億円)や、今年の9月より始まる中学校完全給食の開始に伴う運営経費(約7億円)の増です。

一方、業務見直しなどによる人件費の減は8億円となっています。また、芸術劇場建設で借り入れた市債の償還が終了したことにより、公債費(約9億円)の減となりました。

横須賀市の障害者雇用

私たちの会派では、これまでも一般質問、代表質問等を通して、横須賀市の障害者法定雇用率の早期達成、知的障害者、精神の障害者の正規雇用の推進について質問をしてきました。法定雇用率は最低限達成すべきものであり、市内で障害者雇用を推進していくにも、まずは横須賀市が範を示すべきです。

3月5日の総務常任委員会の予算審査では、『知的障害者、精神障害者の正規職員としての雇用については、来年度の中でどのような採用、募集形態がいいのか検討して、令和4年度からの任用に向けていきたい』『現在採用選考の最中だが、予定通り試験で残っている方が任用されれば4月には法定雇用率を若干上回る形で達成できる見込み』『現在は4月1日採用で試験日程を決めているが、随時採用や短時間勤務での採用を検討中。今年度は身体障害者の年齢制限を撤廃した。』との答弁が総務部人事課からありました。ながらく求めてきた知的障害者と精神障害者の正規職員としての雇用が実現する見込みがやっと見えてきました。

養育費確保支援の事業拡充



令和元年9月定例議会で養育費確保支援についての一般質問を行いました。養育費については、児童扶養手当受給者のうち4分の一ほどしか受け取れていない現状があります。子どもの権利としてしっかり受け取ることができるよう、その支援について提案を含め質問をしました。その後令和2年度より、養育費確保支援事業の一環として、「公正証書等作成促進事業」と「養育費保証促進事業」が始まりました。令和3年度は弁護士相談事業の回数を増やすこと(年13回→15回)と、離婚前段階からの養育費周知強化について、予算が拡充されました。養育費の取り決めをせずに離婚してしまう人が多い(※)ので、離婚前の段階への周知は非常に大切だと思っています。必要な方に必要な情報が届く方策を、しっかりとってほしいと思います。

私は現在「ひとり親家庭支援のための地方議員ネットワーク」に参加しています。ネットワークを通じ、ひとり親世帯へのアンケート実施やそれをもとにした政策提言、支援施策の情報共有などを行っています。引き続き勉強会等を行い、ひとり親及びその子どもに対する必要な施策について考えてまいります。

※厚労省資料によると、母子世帯の母の養育費の状況として「取り決めをしていない」が約60%

多胎育児への支援の拡充

昨年12月定例議会で多胎育児支援について一般質問を行いました。令和3年度は産後ケア事業において、多胎児のお母さんが利用する際の利用料が今までより安くなります。今後も施策が充実されるように多胎のお母さん方の声を届けたいと思います。

3月定例議会では、一般質問はなく、会派に属している場合は、その会派の所属議員が代表し、“代表質問”を行います。代表質問は各会派の持ち時間が20分+10分×会派人数分あるので、非常に多岐にわたって質問をしました。その中から今回行ったよこすか未来会議の代表質問の中の一部を報告します。



待機児童園

の設置を！

令和元年度4月時の待機児童は70人、令和2年度4月の待機児童は45人でしたニーズが把握しづらいのは理解できますが、第2期横須賀子ども未来プラン通りの定員数を確保して、それでも待機児童が出ているならまだしも、プラン通りの定員数が確保できていないというのが現状です。令和3年度も待機児童が解消される見込みはありません。

そこで私たちは、以前も提案しましたが、本気で待機児童解消を目指すなら、入園希望しても入れなかった児童が通うことのできる待機児童園を作って小規模保育事業と一時預かり事業を進めるべきだと提案しました。これに対し、市長は、「一時預かり事業については令和3年4月より、0-2歳児の待機児童対策として保育所等への入所が決まるまでの間の定期的な預かりにも対応できる事業所を設置予定である。小規模保育事業については、今後も実施を希望する事業者がいると思うので、一時預かりの拡充の対策も含めた待機児童対策をさらに進めていく。待機児童園は他市の事例もあるので今後研究したい。」と答弁しました。待機児童園については静岡市が先進的に行っています。そうした事例を参考に一刻も早く待機児童解消を達成してほしいと思います。

衣笠地区のまちづくりについて

2022年のNHK大河ドラマは北条義時を主人公とし、鎌倉幕府誕生前後が舞台となっており、衣笠にゆかりの深い三浦一族の三浦義村が登場します。そこで今後観光客が増えることを見越し、地元の受け入れの土台を強化してどうか、衣笠観光協会や商店街など地元の人たちと連携して本市でも進めていただきたい旨提案したところ、市長からは「衣笠観光協会や地域の皆様と連携しながら、進めていきたい」との答弁がありました。その三浦一族の遺跡が大矢部弾薬庫跡地の中にあります。大矢部弾薬庫は海上自衛隊の施設でしたが解体が遅延してから10年が経過しようとしており、この移管についての状況を問うたところ、「ようやく国による土地境界の越境物の処理が完了予定となった。今後は関係部局による跡地の利用計画の策定を行い、速やかな譲与に向けた協議を進めていく。」との答弁がありました。この地には三浦一族のやぐらの遺跡が存在しており、これらの活用も今度の計画の中で検討してほしいと思います。

国際交流事業について

本市では国際交流式典の開催や姉妹都市間交流等、国際交流課が事業を行ってきました。国際交流課は「基地対策課」と統合し、「基地渉外課」になることが示されていましたが、これにより本市の行う国際交流のイメージに米海軍基地のイメージが付き、本来市が発信すべきものが伝わらないのではないかという懸念から、名称変更を提案し、その後【国際交流・基地政策課】と名称変更されることになりました。また、オンラインでの国際交流も提案したところ、前向きな答弁をいただきました。

おばたさおりプロフィール インターンにご興味ある方はお問い合わせください。またご意見・質問などは下記連絡先へ。
1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。移動事務所:080-1161-4031またはinfo@obatasori.com